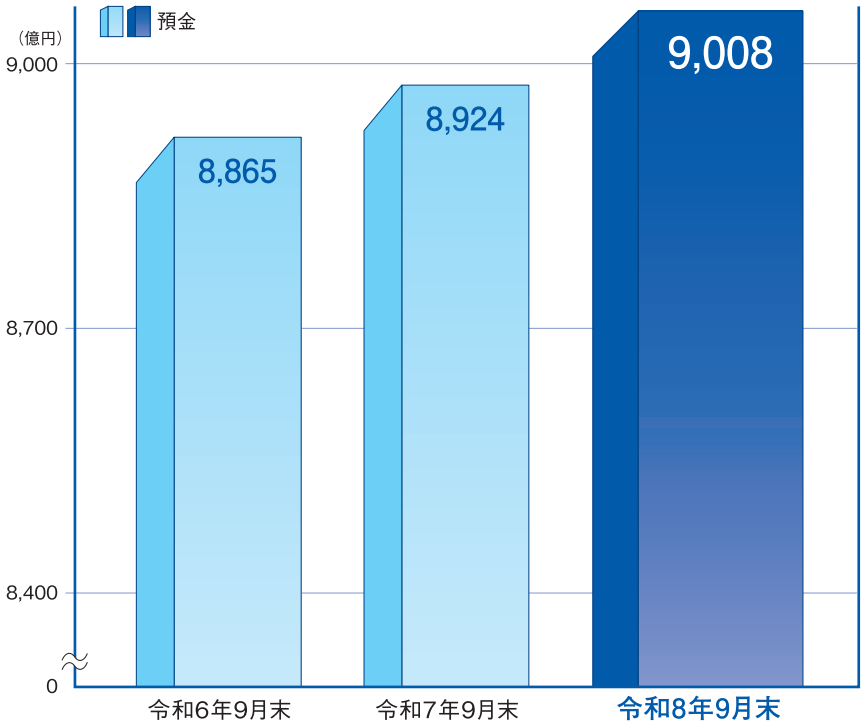
令和8年度上半期の業績（その1）

預金は初の9,000億円の大台を突破

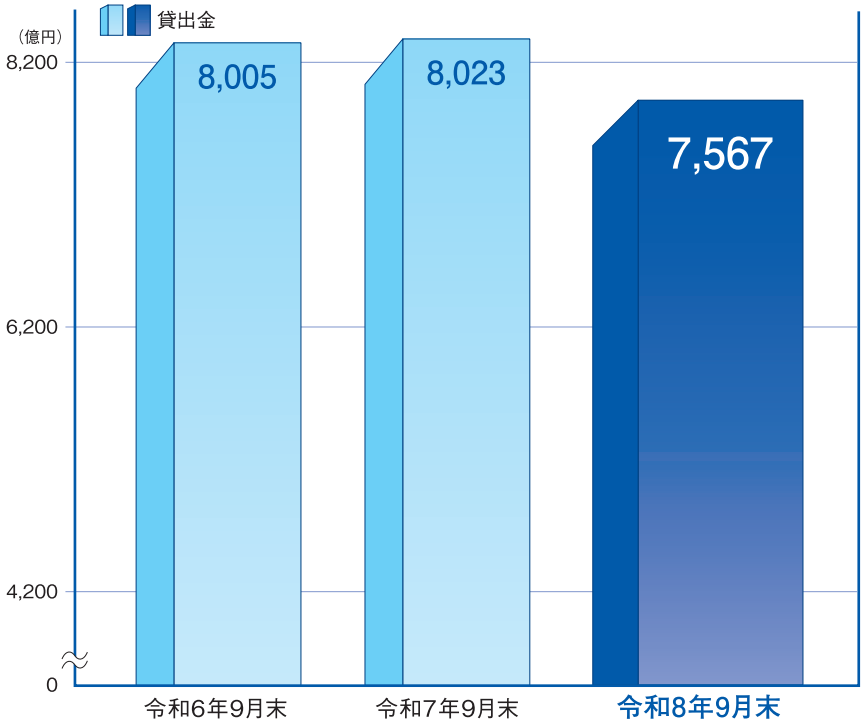
令和8年8月10日（月）より取扱いを開始したニューマネー専用定期預金「まごころ定期」や、最高100万円が当たる懸賞金付き定期預金「ハッピードリーム定期」、年金受給者向け「年金定期」を中心に地域に密着した営業活動を展開しました。また、11月16日（月）の戸坂支店新築移転オープンに向けて、僚店の職員がローラー活動に参加するなど開店運動が進行中です。

こうした取り組みの結果、預金残高は前年同月比84億円増加し9,008億円となりました。



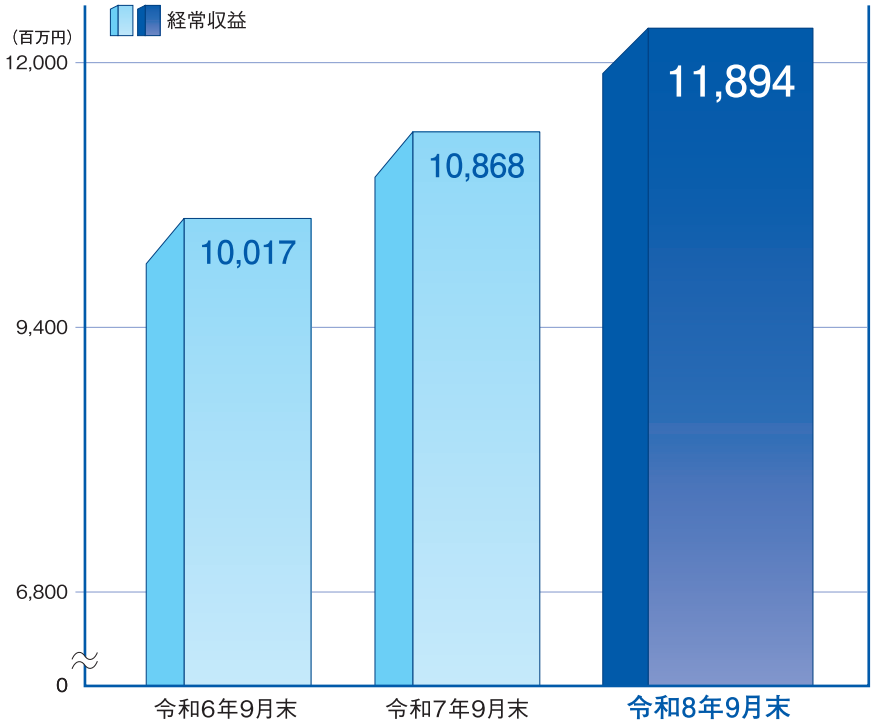
多様な資金ニーズに応じた融資を展開

「地元のお金は地元で活かす」方針のもと、金融仲介機能を発揮して地域金融としての使命を果たすため、お客さまの多様なニーズに応じた営業活動を展開しました。事業性融資ではスモールビジネスローンやミドルビジネスローン、個人向けではフリーローンやカードローンなどを中心に提案を行い、中小企業・小規模事業者や個人の方に積極的に推進しましたが、貸出金残高は前年同月比456億円減少し、7,567億円となりました。



経常収益は23期連続の増収、過去最高を更新

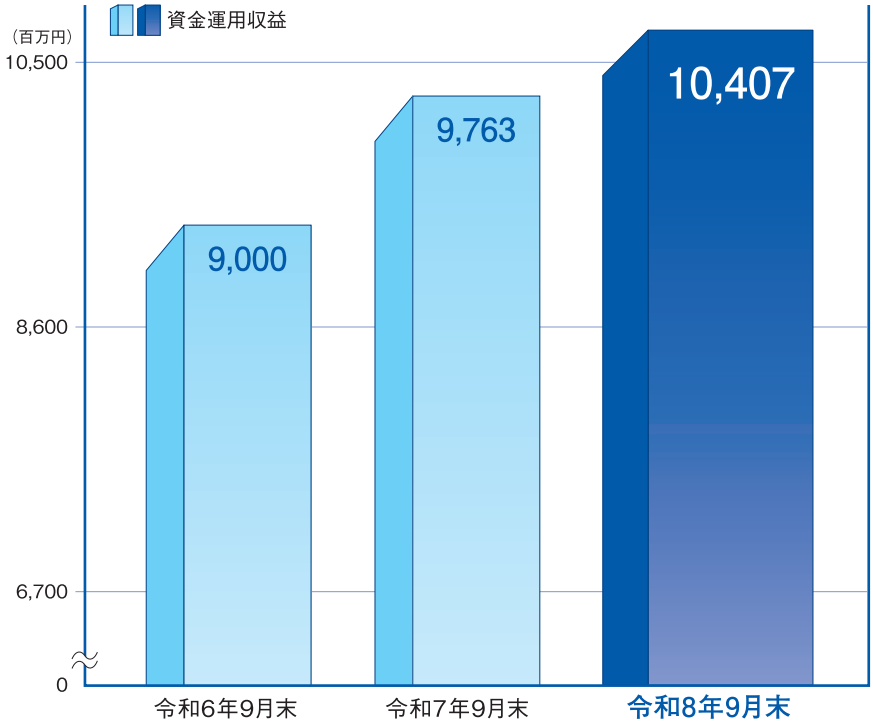
預金・融資の本来業務に特化したシンプルな経営を継続し、資金ニーズに応じた融資を行うことで、地域に密着した営業活動を徹底しました。その結果、金融機関の営業活動による収益を表す経常収益は前年同月比10億26百万円増加し118億94百万円となりました。
この指標は、一般企業の売上高に相当します。



資金運用収益は初の100億円の大台を突破

貸出金利息の増収を主因に資金運用収益は前年同月比6億44百万円増加し、初めて100億円の大台を突破して104億7百万円となり、23期連続の増収かつ過去最高を更新しました。
資金運用収益は預金等より調達した資金の運用から得られる収益を示すものです。

資金運用収益=
貸出金利息+預け金利息+
有価証券利息配当金+
その他の受入利息

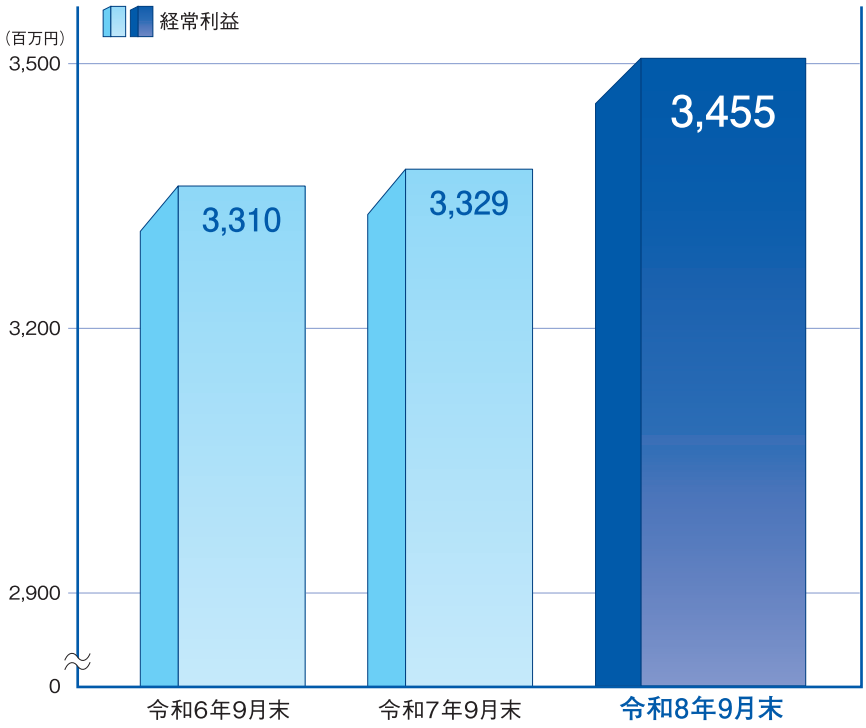


令和8年度上半期の業績（その2）

経常利益は過去最高を更新

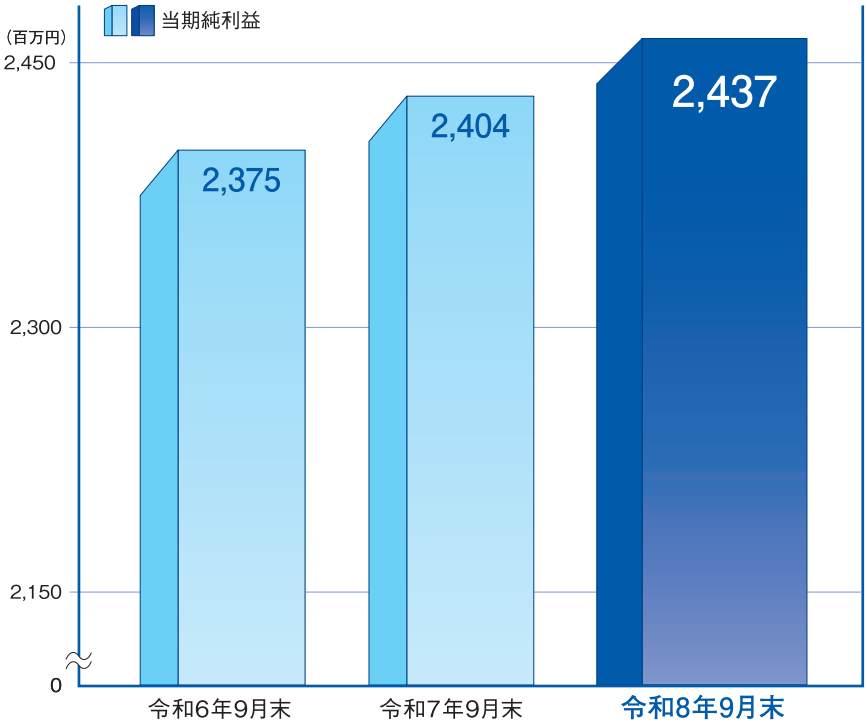
経常利益は経常収益から経常費用を差し引いた利益で、臨時的な利益や損失は除いて算出します。これは、金融機関の収益力や安定性を表す重要な指標になります。
経常収益が増加したことを主因に、経常利益は前年同月比1億26百万円増加し34億55百万円となり、過去最高を更新しました。

経常利益 =
経常収益 − 経常費用



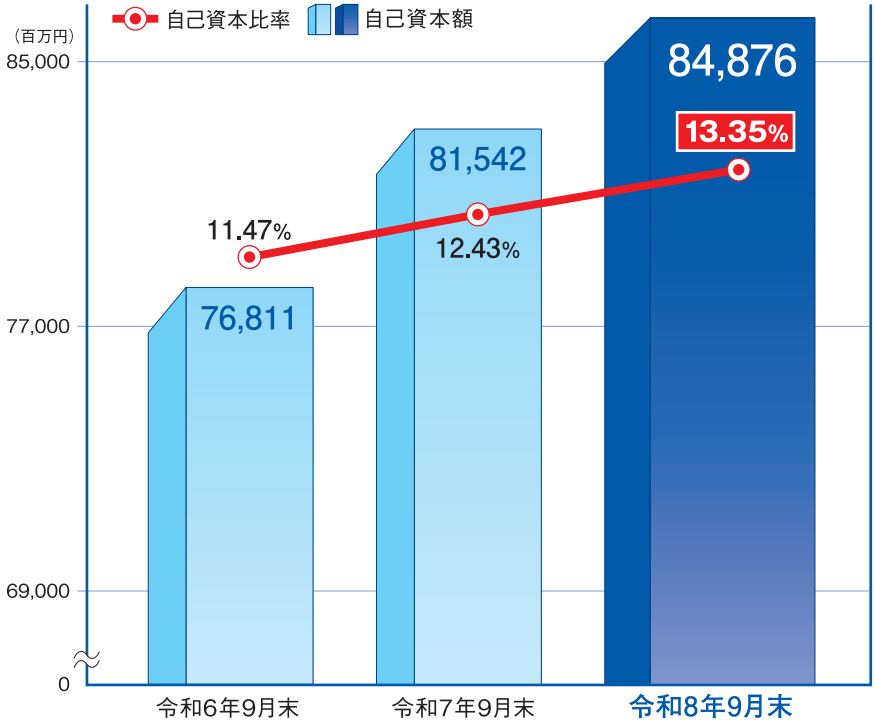
当期純利益も過去最高を更新

お客さまの資金ニーズを的確に把握し、金利環境の変化にも柔軟に対応したことで、貸出金利息が着実に増加しました。その結果、当期純利益は前年同月比33百万円増加し24億37百万円となり、過去最高を更新しました。

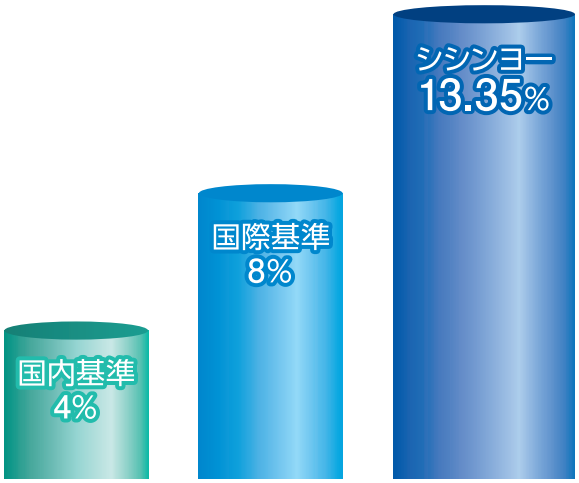


自己資本比率は高い健全性を確保

高い収益性を背景として内部留保を毎年積み上げ、安定した自己資本の充実に努めた結果、自己資本額は前年同月比33億34百万円増加し848億76百万円となりました。
自己資本比率は13.35%と高い健全性を維持しています。



自己資本比率の見方



自己資本比率は、貸出金や有価証券等のリスク資産(リスク・アセット等)に対する出資金や利益剰余金等の自己資本の占める割合を示す比率で、金融機関の健全性・安全性を計る重要な指標です。
国内のみで業務を行う金融機関は4%以上の水準維持が求められていますが、当組合は国際統一基準である8%をも大幅に上回る十分な水準となっています。

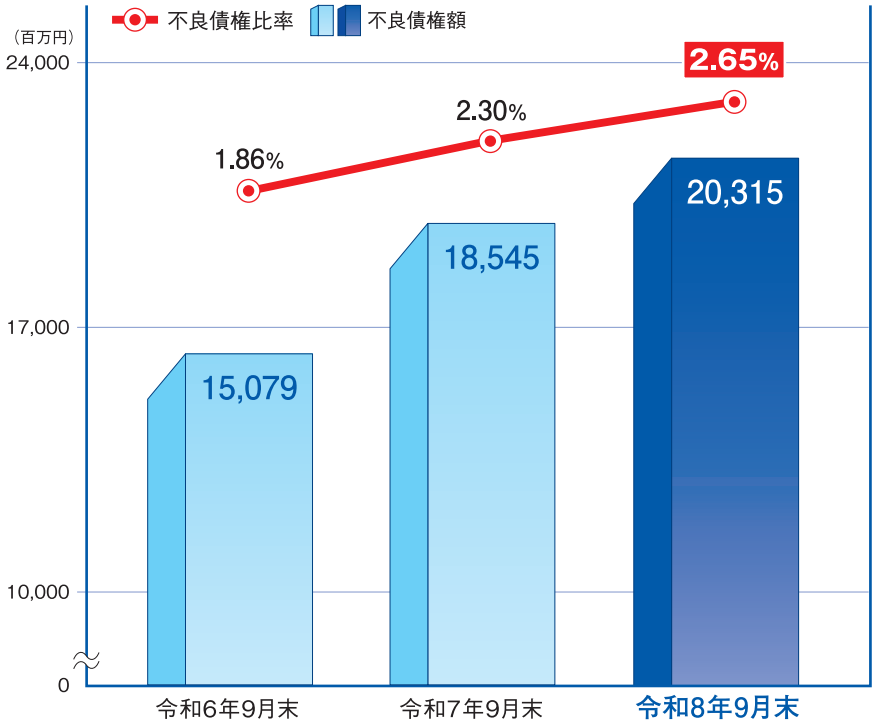
●自己資本比率の算式 $\frac{\text{自己資本額}}{\text{リスク・アセット等}} \geqq 4\%$

令和8年度上半期の業績（その3）

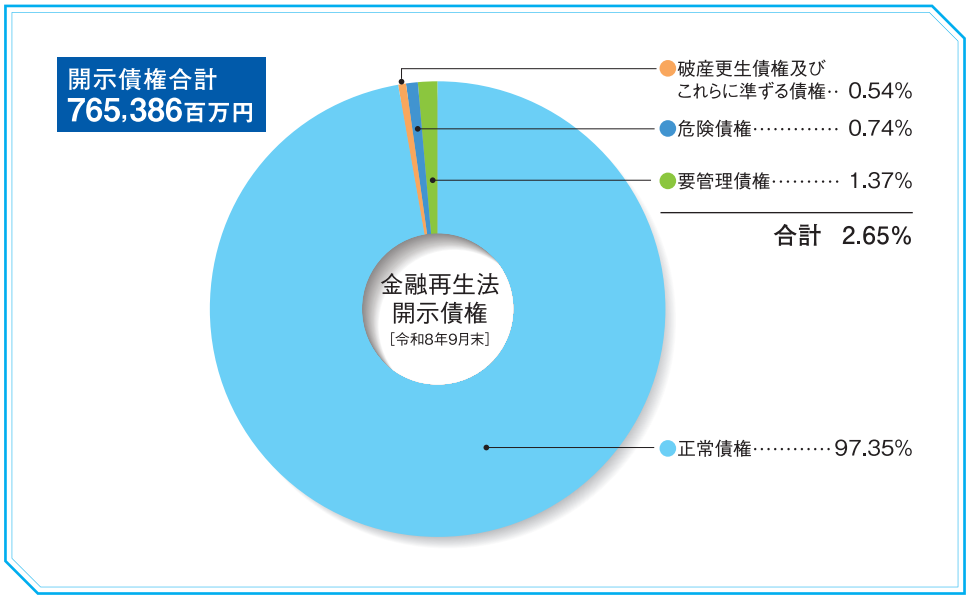
不良債権比率は低い水準で推移

資産の健全性を推し進めるため、的確な資産査定に基づき不良債権のオフバランスと引当金の積み増しを行った結果、不良債権額は203億15百万円となりました。
金融再生法開示債権に基づく不良債権比率は2.65%となり、低い水準で推移しています。

部分直接償却は実施していません。



金融再生法開示債権構成比



部分直接償却は実施していません。

部分直接償却とは、資産の自己査定により回収不能または無価値と判定した担保・保証付債権等について、債権額から担保の評価額および保証等により回収が可能と認められる額を控除した残高を回収不能見込額として、債権額から直接償却することです。